

東京科学大学病院 広域連携型プログラム

協力病院ピックアップ

土浦協同病院

広域連携通信
Vol.4

ここがポイント！

✓ 三次救急病院の最前線で、多様な症例・豊富な手技を経験！

茨城県の三分の一の広さの三次救急医療をカバーする土浦協同病院では、救急診療・集中治療・外科手術などで、研修医自身が処置を経験する機会が豊富です。

侵襲度が高い手技にも、指導医のバックアップのもとで積極的に取り組めるのは、他の病院では得がたい大きな特徴です。座学だけでは身につかないスキルを「実際に手を動かし、汗をかいて」習得できます。

広い地域全体を担う責任感のもとで多様な患者さんに対応することは大きな学びになります。

✓ 距離の近い先輩・指導医から学べる、アクティブな指導体制

救急外来では指導医のバックアップのもとで2年目研修医が1年目をサポートし、互いに学び合う仕組みがあります。若手の指導医が多く質問しやすい雰囲気の中で、カルテの書き方から診察・手技まで丁寧なフィードバックを受けながら、安心して実力を伸ばせる環境です。

研修医の先生方と、プログラム責任者の先生に
インタビューにお答えいただきました！



研修医の先生方



プログラム責任者
渡辺 章充先生



土浦協同病院の研修環境について教えてください



当院独自プログラムに所属する研修医の先生たちが各学年15人ずつで合計30名、また東京科学大学と筑波大学のたすきがけ研修の先生たちが各学年数人ずつ、全体で40名程度の研修医の先生たちが在籍しています。
出身大学などの垣根はなく、お互い助け合いながら熱心に研修し、成長しています。



集まっている研修医は、全体的にやる気と協調性があり、2年生が1年生に教える機会が多いため、教え合いながら学ぶ教育的な雰囲気が受け継がれています。
多様な研修医が集まっていて、和気あいあいとしています。多くの仲間の存在にとっても支えられていると感じます。全体的にアクティブな人が多い印象です。



各科の先生がワンフロアに集まる総合医局に研修医も机をもちょうことができ、相談などがしやすいです。文献検索サービスも利用できます。
市中病院ではどこの病院にでもあるわけではないと思うのですが、シュミレーターを使えるトレーニングラボがあって、手技を練習してから現場で実践することも可能です。
宿舎は病院から徒歩5分で、部屋はとてもきれいです。病院の食堂がホテルオークラと連携していてご飯が美味しいです！



ハンズオンレクチャーで
きっちり基本を学びます

研修の特徴・指導体制について教えてください



教育熱心な指導医のもと、救急診療や集中治療、外科手術などで研修医自身が処置を経験する機会、特に患者さんへの侵襲度が高い手技をおこなう機会が、一般的な研修病院に比してかなり多いと思います。

こうした、座学のみでは身につけにくい、手を動かし汗をかいて覚える必要のあるスキルを習得できるのが特徴と考えています。

救急外来では、指導医のバックアップ下で2年目の研修医が1年目の研修医を指導しており、距離感の近さからコミュニケーションが円滑におこなえて、1年目の研修医にとっては非常に指導を受けやすいと言えます。2年目の研修医にとっても、後輩を指導することで自らの学んだことの再確認となり、また言語化することで知識を整理することにつながっています。

また、指導医も当院は比較的若手の医師が多く、やはり研修医とコミュニケーションが取りやすく、指導にも良い影響が出ていると考えています。



先生方がとても指導熱心で、カルテの書き方から手技、診察の仕方まで丁寧に教えていただけます。
救急外来ではまず研修医がファーストタッチを担当して、必ず上級医に相談しながら進めていく形なので、すごく勉強になります。
積極的に手技をさせてもらえるため、臨床スキルを向上させやすいと実感しています

土浦医療圏の特徴について教えてください



茨城県を3分割した医療圏の1つが当院の担当エリアですが、茨城県の特徴として可住面積が広く、救急車でも30分以上かかる地域からの救急搬送も多くなっています。工業など地元の産業に従事する多国籍の患者さんも少なくありません。

地域と医療の雰囲気としては、地域の患者さんは、医学的な説明だけでなく、丁寧で心のこもった対応による安心感を大切にされる傾向がある印象です。

広い地域から来院する多数の患者さんと接する中で、こうした対応を含めた、医療人の素養を高められるのではないかと思います。



広い地域をカバーしている三次救急病院なので、さまざまな疾患・病状の患者さんに対応を経験をします。

地域性という意味では、農作業中の外傷や、車社会なので交通外傷も多いです。

三次救急病院は地域ではここだけで、県の南東部の鹿行地域など遠方から患者さんが来ることもあります。

生活環境とオフの過ごし方は？



オフの際は全力で趣味を楽しむ人も多く、地域柄ゴルフ場へのアクセスが良いのでゴルフを楽しんだり、トレーニングに励んだり、サッカーを一緒に見に行ったりすることもあります。

ひたちなか海浜公園や、大洗水族館まで足を伸ばすのもお勧めです。ハイキングが好きで筑波山に行っている人もいました。ロープウェイやケーブルカーがあり気軽に楽しめるようです。



病院のイベントにも
全力で取り組みます！



ドライブに行ったり、病院の隣に体育館があって、そこでスポーツをしたりしていました。また、つくば市には美味しいラーメン屋さんがあって、よくラーメンを食べに行っていました。

ゴルフが趣味の同期に誘ってもらってゴルフに行ったこともあります。

海水浴場のある海や霞ヶ浦の湖畔にも行けるので、オフの過ごし方には困らないと思います。地元の野菜などがとても美味しいです。

駅が少し遠いので、車がある方が過ごしやすいと思います。



オフのひとコマ



地域の特徴

壮大な筑波山と霞ヶ浦を望む、豊かな自然と文化に彩られた地域。高齢化率は30.9%(土浦市・石岡市・かすみがうら市の平均、2020年)と全国平均28.6%よりやや高く、都市部と農村部が混在し、JR常磐線や常磐自動車道で東京へのアクセスが比較的良好いためベッドタウンとしての側面もある。

果物(柿、梨、ブドウ)や野菜、蓮根などの生産や、霞ヶ浦産の魚介類、幻の牛と言われる飯村牛など、水産・畜産業も盛ん。日本三大花火大会のひとつ「土浦全国花火競技大会」や、関東三大祭りのひとつ「石岡のおまつり」、筑波山の登山・ロープウェイなど見どころがたくさん！



東京ー土浦 : 約48分

土浦ー土浦協同病院: バスで約25分

研修先を検討中の方へ



機能分化・専門特化した多くの病院で地域住民を支える医療体制をとっている都心の病院とは違って、茨城の医療体制の中で当院が担っている役割は非常に大きく、そこでの救急医療の最前線に関わる初期研修はかなり大変だと思います。

けれど、それを経験することで患者さんから信頼される医師になるために求められる技術・知識、そしてプロフェッショナリズムを身につけることが出来ます。

また、臨床の現場は厳しくとも、総合医局では指導医も研修医もとてもフレンドリーな関係の中で過ごしています。当院での研修をぜひ希望して欲しいと思っています。



私は、たすきがけの1年間を土浦協同病院で研修できて本当に良かったと思っています。働く前は、とても忙しい病院というイメージでかなり覚悟して臨みましたが、当直明けは早めに帰宅させていただいたり、代休もあってメリハリがあったので、しっかり経験を積みながらも、疲れ果ててしまうような事はありませんでした。

診療科が揃っていて、内科系・外科系ともに経験機会が豊富で丁寧に指導していただき、とても幅広い経験を積むことができたと感じています。

研修医の数が多いので、同期と助け合ったり、先輩に教えてもらいながら1年目の慣れない時期を乗り越えることができて心強かったです。手技を積極的に行いたい人や、多様な経験を積みたい人にぜひお勧めしたいです。



研修修了！
みんな大きく成長しました